

いままでの、いまのままで、これからの。

「北海道への想い」

～つたえ、つなげたいこと…。

2018年 北海道命名150年記念
読者参加コラム 特別企画

昭和く平成、そして新たな時代へ。 残し、伝えたい…自然や物への感謝。

佐々木 善雄（札幌市）

私は戦後生まれの団塊の世代です。現代の家庭に当たり前の様に有る家電製品が無かった時代に育ち、欲しい物がやっと入手できた時の喜びを知る世代です。

昨今、駐輪場に引き取り手の無い自転車が放置されているのをよく見かけます。私が幼き頃、自宅には大人用の自転車しかなく、私がサドルに跨ると、ペダルに足が届かない為、三角乗りをして楽しみました。しかし、大切にしていた自転車を盗まれてしまった時には、父にこっぴどく叱られた、そんな時代でした。

我が家に初めて家電の三種の神器「洗濯機・冷蔵庫・炊飯器」がお目見えした時の母が喜ぶ様を、今でも鮮明に覚えております。その後、遂に私が待ち焦がれていた白黒テレビに電源が入った時には、格別の思いが湧き上がりました。このように、日々喜びと感動があった昭和の時代でした。

身近に物があふれ、飽食の現代を過ごす、若き人たちの中には、物に対しての執着心や、物を得た時の感動が低下しているのでは無いかと感じられる時もあります。

時代を歩んできたこの先、取り壊されるかも知れない物として普段見過ごされておりますが、札幌市内には本州では決して見る事の無いサイロが有ります。当たり前の風景ですが、凄いいことだと思うのは私だけでしょうか？



旧陸軍施設 防空指揮所



北海道百年記念塔



サイロ

もう一つ開拓に尽力した先人の偉業を讃え、輝く未来への象徴として建てられた、野幌丘陵の「北海道百年記念塔」も、現在老朽化の為、長きに渡り展望台への立ち入りが禁止となっており、やがては取り壊しの対象物となるのでしょうか？そして失った戦争遺産としては、札幌市豊平区に分厚いコンクリートの壁に覆われた「旧陸軍の防空指揮所」、東北以北を統括する北の大本営が有り、戦後は自衛隊の通信施設として使用されていたものの老朽化が進み、市民団体による保存の動きが有りましたが取り壊されました。

形あるものは、いつかは朽ちて無くなる物ですが、失ってから取り戻す事はできません。昭和から平成、そして新たな時代へ…、無くしてはいけない物、繋げて残さなければならぬ自然や建造物への見極めが大切かも知れません。

蝦夷地が北海道と名を改めて150年。これまでの、そして、これからの北海道への想いをコラムで発信してみませんか？

詳しくは66ページをご覧ください。